

ウクライナ支援に日米が協力

U.S. – Japan partners execute joint Ukraine aid mission

March 17, 2022

By Staff Sgt. Ryan Lackey
374th Airlift Wing Public Affairs

3月16日、米軍と自衛隊はウクライナに38トン分の非殺傷性装備品を空輸する支援を直ちに行い、日米同盟の結束の強さを示した。

日本政府がウクライナへの人道支援物資の供与を決定してから日米の部隊は数時間のうちに機動し、3日以内に物資の引き渡し、準備、米軍機C-17グローブマスターへの積み込み作業を完了した。

ラーム・エマニュエル駐日米国大使は、「今日、我々は日米同盟が実行に移されるのを目の当たりにした」「今日、我々の同盟は、友人であるウクライナの国民を救うために団結し、日米の歴史に新たなページを刻む。このような形の協調は異例に見えるかもしれないが、これこそ同盟国が行うことだ。戦争、災害、あるいは社会ののけ者の行為に対抗して団結する時も、米、日本、ウクライナは共に立ち上がる」と述べた。

物資を積んだC-17グローブマスターIIIが横田を出発する前に、エマニュエル駐日大使、鬼木誠防衛副大臣、アレクサンドル・セメニュク駐日ウクライナ大使館公使参事官は、二国間の共同支援、およびウクライナ、そして各国の主権と自由の妨害に立ち向かう支援に謝意を示した。

セメニュク公使参事官は、「ウクライナを支援してくれた日米の友人に、深い感謝の意を表したい」「その貨物は特別なもので、結束の証だ」と述べた。

我々の同盟は、共通の利益、共通の価値観、そして自由と人権守る決意の上に築かれている。同盟はかつてないほど強固であり、困難な安全保障上の課題に直面している今ほど、この地域にとって重要な時はない。このパートナーシップは、自衛隊と在日米軍の巧みなチームワークによって常に示されており、いかなる困難にも立ち向かう準備ができている。

